



地域共生応援大使
ふっころ

あなたとフクシを結ぶコミュニケーション誌

福祉だより 信州

社会福祉法人長野県社会福祉協議会 ふれあいネット信州 <https://www.nsyakyo.or.jp/>

vol.811
DEC.2023

編集・発行
長野県社会福祉協議会



CONTENTS

ちいきとあなたと、ともに暮らす…………… 2P

福祉のまちづくりは地域の人々の総力戦
地元全体で障がい者の自立を見守る体制づくりを

特集 信州で暮していこうフォーラム 2023

豊かに暮らし続けていくことができる
信州を目指すために…………… 4P

あんみら通信…………… 7P

信州のSDGs活動…………… 8P



「福祉だより信州」は
共同募金の配分金で
発行されています。



福祉のまちづくりは地域の人々の総力戦
地元全体で障がい者の自立を見守る体制づくりを



毎号、福祉の現場に新しい風を吹き込む
スタッフをご紹介します。

特定非営利活動法人 北アルプスの風
障がい福祉部 部長・地域づくり支援課 課長
まつざわ しげお
松澤 重夫さん

大町市を拠点に、高齢者も障がい者も誰もが暮らしやすい地域づくりを目指して、33の事業所を運営している「北アルプスの風」。障がい者福祉に携わって20年以上となる松澤さんは、地元でさまざまな人が参画して障がい者を支える地域づくりに力を注いでいます。

多様な人や組織を巻き込み、地域で支える障がい者福祉を



1



2



3



4

1,2 弟に知的障がいがあったことから福祉分野に進んだ松澤さん。「がんばりやさん」の屋号は、障がいがある人が日々頑張っている姿を多くの人に知ってもらいたいとの思いが由来。月1の商店街の清掃行事や懇親会にも必ずメンバーが参加している。

3 「大町名店街」の3か所でパン工房や喫茶店などを営業。付近では2か所の生活介護も。

4 市内で廃業したバッティングセンターやラーメン店を活用し、利用者の雇用を促進。

地元根に根ざす福祉活動を展開

多くの店が立ち並び、人が行き来する「大町名店街」。近年は各地でシャッター街が増えていますが、昭和47（1972）年にできたこの商店街は今も新規出店が見られ、市内で最も空き店舗が少ない商店街です。共同作業所「がんばりやさん」など北アルプスの風が運営する事業所の利用者たちが日々掃除に努め、彼らの明るい声が響きます。「やはり、うちのメンバーがいるとにぎやかですね。ここは私が子どもの頃は華やかな商店街でしたが、大人になって地元に戻ったらシーンとした商店街になっていました。今は店が増えて子どもたちが行き交い、多少でも私たちが地域に貢献できていると感じます」と話すのが「がんばりやさん」の開店に尽力してきた松澤重夫さんです。

日本福祉大学社会福祉学部を卒業後、佐久市の障がい者福祉施設で7年間働き、地元で障がい者福祉を展開したいと平成17（2005）年に大町市へUターンした松澤さん。大町市福祉課などに相談し、養護学校での親の集会などにも参加して周囲の希望を聞きながら、妻の協力のもと、家の改修を自費で行い、自宅で障がい児を預かるタイムケア事業を開始しました。「お母さん方から地域の福祉環境の不安や不満を聞き『これでは皆が大町を愛せなくなってしまう。生まれ育った地域を少しでも変えたい』との思いが原動力でしたね」

拠点から始まる地域づくり

同年4月には拠点を構えたいとの思いで、高校時代の先輩が理事長を務める北アルプスの風に入職。デイサービスで働きつつ、紹介された商店街の空き店舗で1年間かけて準備を進め、市や商店街の理事長の後押しを受けながら、平成18（2006）年「がんばりやさん」を立ち上げました。当初、利用者は数名程度でしたが、土曜日でも運営している利便性が評判となり、法律改正も相まって年々利用者が増加。今では総勢120名ほどを支援しています。それでも、まだまだ障がい者福祉の根本は昔から変わっていないと話す松澤さん。

「福祉のまちづくりは一部の法人が頑張っただけで乗り切れるものではなく、業界や自治体など全ての人たちが絡み、地域がリードして取り組まないと進みません。そのためには人も組織も必要です。そして、利用者自身の力を引き出しながら、地域の仕事を支える人材として活躍してもらい、自立して生きていける体制をつくり、地域全体で見守っていくスタイルを確立させたい。障がいのある方も自分の夢や希望を叶えることに周囲の人が協力できる地域づくり、啓発活動を行って行きたい」と話します。

社会福祉法人 北アルプスの風

【住所】大町市大町 3504-13

【電話番号】0261-29-6515（リーベおおまち兼用）

<https://www.kita-alps.org/>

ホームページ



豊かに暮らし続けていくことができる
信州を目指すために

信州で暮していこうフォーラム2023

2023年10月20日(金)
長野保健福祉事務所3階会議室



私たちの生活はたくさんのつながりによって心身の豊かさを感じることができています。しかし、認知症や障がい、生活困窮など、様々な背景により地域社会とのつながりが途絶えてしまうことも事実です。この3年ほどは、コロナ禍で社会参加の形や活動の機会が変化し、健康リスクへの影響などの課題があげられました。



木島平村 ふれあいランチ・訪問活動
意見を出し合いながら活動を検討し新たな繋がりも生まれました。

信州で暮していこうフォーラムは、地域の暮らしぶりに目を向け、地域全体でつながりを切らない地域包括ケアの姿を考える機会として昨年度より開催しています。ご近所クリエイションの酒井保氏をコーディネーターとして迎え、「つながり」と「住民主体」をキーワードとして、豊かな信州の暮らしと福祉の取組事例を紐解きながら登壇者との対話形式によりすすめました。地域の実践団体、支援者、関係機関とともに、豊かに暮らし続けていくことができる信州を目指して、「つながり」が途絶えず暮らし続けられるための、それぞれの思いや取組の方向性について意見を交わしました。



“ずく”りの会通信
立科町「たてしな“ずく”りの会」は、住民同士の支え合い活動を会報誌で紹介しています。

今回のフォーラムを通じ、地域住民の力を再確認すると同時に、住民の描く暮らしぶりへの思いに耳を傾け、対話を重ねていくことが大切であることが見えてきました。さらに、地域住民と専門職、支援団体とが、互いに持てる力を知り、伴走的に補完し合いながら“つながりを切らない地域づくり”を今後も進めていくことを確認する機会になりました。

地域における住民支えあいの現状「生活と暮らしづくりの姿」を再確認しよう！

1部では、豊かな暮らしをイメージし実践している、木島平村と立科町の事例を通じ、自分たちの描く地域にむけた多様な活動の工夫や力について紹介しました。

木島平村の取組

住民活動の本質を大切に、柔軟に対応しながら作り上げる信頼と安心の構築

コロナ禍における配食サービス「ふれあいランチ」の取組から、本来の住民主体の活動の意味や、対話を丁寧に重ねながら活動継続へ向けた工夫がありました。さらに、地域住民の声が集まる地域の居場所「寄りし・来らし・夢ひろば」では、暮らしの中のつながりをつなげ、地域の声や課題を、支援機関である社会福祉協議会とも共有し、住民の目指す暮らしづくりをサポートする関係性が確認できました。



立科町の取組

動く協議体として、我が事として地域のニーズから皆で取り組むアクションへ

立科町地域づくり推進会議としての協議体の「たてしな“ずく”りの会」（愛称）のメンバーが“支え合い自ら輝く地域づくり”をスローガンに掲げ、住民同士が優しく支え合える町づくりを目指している活動を紹介

しました。協議体メンバー自身が、積極的に地域の声に耳を傾け、特技やネットワークを活用して地域の課題解決に向けて取組んでいます。さらに住民の活動をバックアップする機関としての役場や社会福祉協議会等と連携できるよう、パイプ役も担っています。住みよい地域づくりに向けての活動を協議体メンバー自身が楽しみながら行うことで、地域の様々な団体や若い世代へもつながり、活動の広がりにつながっています。



地域性ある豊かな暮らしを支える支援機関としての働き

2部では、豊かな暮らしを支えるための地域住民の取組を行政機関としての情報提供と、つながりを切らない支援の連携について意見交換を行いました。

厚生労働省社会・援護局地域福祉課 地域共生社会推進室室長補佐 高坂 文仁 氏



発表されたパネリストの方々の表情が自信に満ち溢れていました。単に活動内容が充実しているだけでなく、自分たちの活動が地域に貢献できている充実感のようなものを感じ取ることができました。また、県社協としてフォーラム開催など、多くの長野県民の皆さまが、地

域共生社会の構築に向けた取組に関わることができるよう、引き続き専門的な立場からご尽力頂くことを願っております。

長野県健康福祉部介護支援課 主任保健師

小澤 文乃 氏



フォーラムで、地域で活動されている皆さまのお話しを伺うことができ、とても貴重な機会でした。地域とつながりを大切に、いきいきと活動されている姿がとても印象的でした。地域に出るといろいろな発見があり、やはり地域づくりって面白いと感じます。今回の学びを職場の仲間と共有し、県として何ができるのか考えていきます。

ご近所クリエイション主宰 酒井 保 氏



「住民主体」と「つながり」が論点となった今回のフォーラムでは、その本質を追究した立科町、木島平村の取組から「地域のチカラ」の素晴らしさを学びました。その透きとおった発言からは「地域を良くしたい!」という“住民の信念”と「その思いを後押ししよう!」とする“専門職の覚悟”が見てとれました。なるほど!これば自助・互助・共助・公助」というものを完全に淘汰した“信州イズム”か!?信州民ではない僕が感じた素直な感想……信州ってスゲー!

日本国内でのボランティア活動中のケガや賠償責任を補償!!

令和5年度

ボランティア活動保険

商品パンフレットは
こちらから
(ふくしの保険ホームページ)



保険金額・年間保険料 (1名あたり)

団体割引20%適用済 / 過去の損害率による割増適用

保険金の種類		プラン	基本プラン	天災・地震補償プラン	特定感染症重点プラン	
ケガの補償	死亡保険金		1,040万円			
	後遺障害保険金		1,040万円(限度額)			
	入院保険金日額		6,500円			
	手術 保険金	入院中の手術		65,000円		
		外来の手術		32,500円		
	通院保険金日額		4,000円			
	特定感染症	補償開始日から10日以内は補償対象外(*)		初日から補償		
賠償の補償	地震・噴火・津波による死傷		×	○	○	
	賠償責任保険金 (対人・対物共通)		5億円(限度額)			
年間保険料			350円	500円	550円	

*3月末までに契約手続きが完了し、前年度から継続して契約される場合は初日から補償します。

<重要>

- ◆基本プランでは地震・噴火・津波に起因する死傷は補償されません。
- ◆特定感染症重点プランでは中途加入の場合でも補償開始日より特定感染症が補償対象となります。
- ◆年度途中でご加入される場合も上記の保険料となります。
- ◆中途脱退による保険料の返金はありません。
- ◆途中でボランティアの入替や、ご加入プランの変更はできません。
- ◆ご加入は、お1人につきいずれかのプラン1口のみとなります。



ボランティア行事用保険

(傷害保険、国内旅行傷害保険特約付傷害保険、賠償責任保険)

送迎サービス補償

(傷害保険)

福祉サービス総合補償

(傷害保険、賠償責任保険、約定履行費用保険(オプション))

●このご案内は概要を説明したものです。詳細は、「ボランティア活動保険パンフレット」にてご確認ください。●

団体契約者 社会福祉法人 全国社会福祉協議会

〈引受幹事〉 損害保険ジャパン株式会社 医療・福祉開発部 第二課
 保険会社 TEL: 03 (3349) 5137
 受付時間: 平日の9:00~17:00(土日・祝日、年末年始を除きます。)
 この保険は、全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約です。

取扱代理店 株式会社 福祉保険サービス

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
 TEL: 03 (3581) 4667
 受付時間: 平日の9:30~17:30(土日・祝日、年末年始を除きます。)

(SJ22-12223より抜粋して作成)

令和5年度
社会福祉施設
総合損害補償

しせつの損害補償

インターネットで保険料試算できます

ふくしの保険

検索

老人福祉施設、
障害者支援施設、
児童福祉施設などに

スケールメリットを活かした割安な保険料で
充実補償をご提供します!

◆加入対象は、社協の会員である社会福祉法人等が運営する社会福祉施設です。

プラン1 施設業務の補償 (賠償責任保険、動産総合保険等)

① 基本補償(賠償・見舞)

保険期間1年

▶ 保険金額		基本補償(A型)	見舞費用付補償(B型)
賠償事故	身体賠償(1名・1事故)	2億円・10億円	2億円・10億円
	財物賠償(1事故)	2,000万円	2,000万円
	受託・管理財物賠償(期間中)	200万円	200万円
	うち現金支払限度額(期間中)	20万円	20万円
	人格権侵害(期間中)	1,000万円	1,000万円
	身体・財物の損壊を伴わない経済的損失(期間中)	1,000万円	1,000万円
	徘徊時賠償(期間中)	2,000万円	2,000万円
お見舞い等	事故対応特別費用(期間中)	500万円	500万円
	被害者対応費用(1名につき)	1事故10万円限度	1事故10万円限度
	傷害見舞費用		死亡時 100万円 入院時 1.5~7万円 通院時 1~3.5万円

●この保険は全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約(賠償責任保険、医師賠償責任保険、看護職賠償責任保険、雇用慣行賠償責任保険、役員賠償責任保険、サイバー保険、普通傷害保険、労働災害総合保険、約定履行費用保険、動産総合保険、費用・利益保険)です。

●このご案内は概要を説明したものです。詳細は「しせつの損害補償」手引またはホームページをご参照ください。●

団体契約者 社会福祉法人 全国社会福祉協議会

〈引受幹事〉 損害保険ジャパン株式会社 医療・福祉開発部 第二課
 保険会社 TEL: 03 (3349) 5137
 受付時間: 平日の9:00~17:00(土日・祝日、年末年始を除きます。)

取扱代理店 株式会社 福祉保険サービス

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
 TEL: 03 (3581) 4667
 受付時間: 平日の9:30~17:30(土日・祝日、年末年始を除きます。)



プラン1 オプション5 施設の感染症対応費用補償

休業補償から各種対応費用までワイドな安心

- ① 休業や縮小営業による収益減少はもちろん、収益減少を防止・軽減するための人件費なども補償
- ② 消毒・清掃費用や自主的なPCR検査費用など、かかった費用を幅広く補償
- ③ 感染症対応特別費用で定額20万円を早期に受取り

プラン2 施設利用者の補償

プラン3 職員等の補償

プラン4 法人役員等の補償

(SJ22-12033から抜粋)



生活支援プロジェクト「地域住民との協働活動支援事業」

平成 30 年 7 月に本事業がスタートして今年で丸 5 年が経過し、累計で 20 社協、62 件の実績があります。本事業は生活支援プロジェクトの事業内でも好事例が多く、相談者の生活課題の解決に貢献しています。

地域住民との協働活動支援事業とは？

社協の職員や関係する支援者などが地域住民と協働して地域から孤立している住民等への支援に取り組む場合に必要な経費を補助（上限 1 万円）する事業です。主に、いわゆるゴミ屋敷等への支援に利用されています。



協働活動を通じた本人の変化

事例

※個人情報等に配慮し、実例を加工して掲載しています。

3 人世帯の家庭で、父は足の痛みがあり、母は要介護状態、息子は家に帰ってきても車中泊をするなど、家族関係もあまりよくない状態です。

世帯は、近隣住民との折り合いもよくないため、地域活動に参加しておらず、ゴミ捨て場までの距離が遠くゴミ捨てに行けないため、家の中は物が散らかっている状態です。地元の民生委員がなんとかできないかと気をつけ、社協とつながり、本事業を利用しました。

息子は社協から相談があった日から準備期間中まで、当事者意識がとても低い様子が見受けられ、協力的ではありませんでした。しかし、作業当日、協力者（民生委員、近隣住民、社協職員、まいさぼ職員）と一緒に作業をするうちに、コミュニケーションも取れ、徐々に心を開き協力的になりました。また、今後の家事の分担について、息子がゴミ出しを行うことや、重い物や不燃ゴミは友人や民生委員に相談し、処理できるようになりました。

家の中がきれいになったことにより家の中で暮らせる環境ができ、息子と父との関係性も良くなりました。また、今までは折り合いが良くなかった近隣住民との関係も良好になり、地域の朝の清掃活動にも参加するようになりました。

この事例のとおり、当事者の環境面の改善だけでなく、気持ちの面でも大きな変化が起き、本人の地域参加の第一歩に大きく貢献していることが分かります。

地域で暮らしていくうえで課題となっていることを明らかにし、多様な人々と共有しながら、あらゆる住民や組織、専門職が協働し、長野県民 200 万人が「あんしん」して暮らすことができる地域社会を目指して長野県社会福祉協議会は取り組み続けます。

本事業に関する
お問い合わせはこちら

長野県社会福祉協議会 相談事業支援センター
TEL.026-226-2036

信州のSDGs活動 NAGANO SDGs PROJECT



2030年に向けて持続可能で「誰一人取り残さない」よりよい社会の実現を目指す世界共通の目標であるSDGs (Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標)。少しの工夫で世界を良くするための、そんな取り組みをご紹介します。

“ともに生き、ともに働く社会の創造” 労働者協同組合 ワーカーズコープ・センター事業団 北陸信越事業本部 信州エリア



ワーカーズコープは、ともに生き、ともに働く社会を目指して、「協同労働」という働き方を実践してきました。「よい仕事」を通じた一人ひとりの成長を促進、違いを認め合い、話し合いによって互いの力を出し合う働き方によって、利用者や地域の人たちとも連携しながら

持続可能な地域社会の実現を目指しています。働く人たち、サービスを利用する利用者や家族、地域に住む人々と“協同”しながら、みんなで事業を運営します。

ワーカーズコープ・センター事業団は、公共施設の管理・運営、保育園・学童クラブ・児童館・児童デイサービスなど子育て支援、若者や障がい者・失業者・生活困窮者などの自立・就労支援など幅広い分野の事業を実施しています。また、様々な地域の課題に対し一人ひとりの願いを大切に、地域をベースにした地域住民の輪によって解決するための「社会連帯活動」という取組も進めています。

上田事業所では、市から受託している児童クラブを運営する中で把握した課題認識をもとに、フリースペースの設置や学習支援、子ども食堂、制服バンクなど地域住民や関係者ととも様々にことに取り組んでいます。

取材当日は、「おけまる食堂(無料の子ども食堂)」が開かれており、子どもたちの元気いっぴいの声が聞こえていました。この食堂は、ワーカーズコープ・センター事業団が立ち上げや運営支援を行うとともに、場所を提供し、地元の高校生、大学生や地域住民によるボランティアの皆さんで運営がされています。おけまる食堂実行委員の澤柳さんが「木曜日が楽しみで、楽しみで仕方ない」と話されているのが印象的で、その場にいる全員で創り上げている素晴らしい食堂でした。

事業団で大切にしていることは、地域の人々が自分たちで自分たちの地域を持続可能な場にしていくということ、そのために主体性を大切にし、必要なときに必要な部分だけ手を携えていくという姿勢を大切に様々な活動を行っていました。

「働く」という協同労働を活かして話し合いの中から様々な市民活動を起こし、仕事おこしの種を実らせていきます。やってみたいこと、活用したいことなどのアイデアや工夫があれば、ぜひお近くのワーカーズコープに相談してみてください。何か新しい発見や新しい取組のきっかけとなるかもしれません。

労働者協同組合
ワーカーズコープ・センター事業団
北陸信越事業本部 信州エリア 上田事業所
TEL: 0268-71-0031
<https://workers-coop.com/>



『ミーちゃんとのアートのハジマリ』



ミーちゃんが利用する通所事業所で月に一回の墨遊びのアートワークを提供している。ミーちゃんはとても障害が重く、言葉によるコミュニケーションは難しく、歩行も難しく、左目の視力はないらしい。普段は用意された個室で、座り込んで音楽を聴きながら声を出しては楽しそうに身体を揺り動かしている。関はミーちゃんには墨遊びのワークは無理だろうと決めつけていたが、あるときふと『どんな反応するだろうか?』とミーちゃんの個室の入り口に紙を広げ、筆を見せながら『ミーちゃんぐりぐりやるうか?』と言うと、ミーちゃんはそこまで寄り寄ってきて筆を持とうとした。筆を握る力はとても弱いので、墨を含ませた筆を離さないように手に握らせて『ミーちゃん、ビューン』と声をかけると、筆を持つ手を手前に引いた。そこには黒々とした線が現れた、何度も『ビューン』をやるとミーちゃんははともうれしそうだ。回を重ねるごとに『ぐりぐりやる?』と筆と紙を用意するとミーちゃんは積極的にその前までニコニコやってくる、墨でぐりぐり線を引くことを楽しむようになった。『できない』とずっと決めつけてきた自分を大いに反省したのだ。何より嬉しいことに、それを見ていたスタッフさんが『ミーちゃん、すごーい!』と絵具でめりめりのアプローチをし始めている。ミーちゃんの可能性は広がっていく。
(ながのアートミーティング 関 孝之記)

Webサイトもご覧ください!

ご感想・お問合せ・掲載希望等は下記へお寄せください

長野県社会福祉協議会 総務企画部 企画グループ
TEL 026-228-4244/FAX 026-228-0130
E-mail info@nsyakyo.or.jp

<p>長野県社会福祉協議会</p>	<p>福祉・介護べんり帖</p>	<p>長野県福祉研修共同サイト きゃりあねっと</p>	<p>信州福祉・介護のひろば</p>
-------------------	------------------	---------------------------------	--------------------